

高島市小中一貫教育 子どもの発達段階・学びの段階を考慮した指導の方向

● 後期 中第2(8)、3(9)学年

● 中期 小第5、6、中第1(7)学年

● 前期 小第1、2、3、4学年

● 就学前

発達段階

学びの段階

指導の方向性

◇自己概念がほぼ確立

- ・自分が、他者や集団の中でどう映るかを客観的に判断し、感情をコントロールしながら発言できるようになる。
- ・思春期の後期となり、理想と現実を見極め、自分のなすべきこと、あるべき自分を展望できるようになる。
- ・自己選択、自己決定しながら、前向きに自己実現を図ろうとする。
- ・自他の違いを認め、受け入れ、自分らしくよりよく生きようとする。

◇基礎基本を応用しながら課題解決

- ・自分の得意不得意などを認識し、将来を見据えて、学習するようになる。
- ・学習活動への自律ができ、自己決定しながら取り組む。
- ・結果や成果だけではなく、総合的な価値判断をし、自分に合った効果的な学習方法に改善しようとする。
- ・求める生き方をする人、理想とする人との出会いが学習意欲を高める。

◇よりよく生きようとする態度の育成、豊かな人間性の確立

- ・様々な人や学習内容との出会いを通して、身につけた知識・能力を活用・応用しての自己実現
- 個々の課題に応じた総合的専門的な助言や支援
- 学習内容と社会の関連性を示し、進路実現に向けて、展望がもてる指導
- 自分の思いを広く発信しようとする態度の育成

◇自我同一性の芽生え、自分探しの時期

- ・心理的不安により自尊感情の低下がみられるが、他者から認められたり、努力が成果として表れたりしたときに自尊感情が高まる。
- ・自己中心性から脱却し、他者から見た自分を客観的に見ることができるようになる。
- ・自らの生き方を模索するようになり、将来を見据え、自己の探求を始める。
- ・発達の個人差が顕著になる。

◇基礎的な事柄を活用しながら定着

- ・具体思考から抽象思考へと移行する時期で、その変化にギャップを感じることもある。
- ・精神的に不安定になることや他人の目を意識するようになり、学ぶ目的を見失ったり、挑戦や活動への意欲が低下したりすることがある。
- ・将来を見据え、専門的知識や高度な技術を求めるようになり、知的好奇心が高まる。

◇集団や人間関係の充実を図り、互いの良さを認め、支え合える集団作り

- ・学んだことの積極的活用を通し、基礎基本の確実な定着
- 児童生徒のリーダー性の育成
- 各教科・領域特性に応じ、より専門性を生かした指導
- 豊かな人間性・人間関係を育むコミュニケーション活動の設定

◇自己肯定感や自己有能感が優勢

- ・あこがれ等、自己の理想とするイメージを現実の自分と重ね合わせようとする。
- ・心地よいものに進んで取り組み、嫌なことは避けようとするなど、直感的な行動がみられる。
- ・感情表現は自己中心性が強い。
- ・自尊感情は周囲の愛情により育まれる。
- ・善悪についての理解と判断ができるようになる。

◇基礎的な事柄を繰り返しながら習得

- ・活動への欲求が高く、活動体験から感覚的・経験的に理解する。
- ・一斉学習導入期であり、集団規律を体得する。
- ・当初は教師との関わりが中心となるが、学年を追うごとにペア・グループ学習の導入が可能となる。
- ・目に見える結果や成果が、学習意欲や活動欲求を向上させる。

◇集団生活、人間関係の基盤を形成

- ◇繰り返し学習・体験学習を通して基礎基本の確実な定着
- 意欲を高める声かけや肯定的な評価
- 確かな学力、豊かな人間性の基盤となる資質・能力を身につける指導
- 楽しく人と関わるコミュニケーション活動の設定

・保護者や友達に受けとめられることにより、自己発揮し、自信を持って行動できるようになる。

・相手の気持ちや意見を理解し、受け入れるようになる。

・様々な環境や出来事に関心を持ち、それらを取り入れて遊ぶ。

・文字や数に関心を持ち、読み書きしてみようとする。

・社会性や道徳性の芽生えとなる遊びを創り出す。

・相手の気持ちを考え、自分の気持ちを言葉で伝えられるようにする。